

第1回 豊田市こどものスポーツ・文化活動等に関する協議会 会議録

日 時	令和5年3月28日(火) 10:00~11:30
場 所	教育委員会会議室 (東庁舎6階)
参加者	<p>【会 長】中野 貴博 中京大学 スポーツ科学部 教授</p> <p>【副会長】藤田 雅也 静岡県立大学短期大学部こども学科(美術教育研究室)准教授</p> <p>【委 員】粕谷 浩二 (公財)豊田市スポーツ協会 常務理事</p> <p>【委 員】藤本 聡 (公財)豊田市文化振興財団 専務理事</p> <p>【委 員】加藤 矢舟 豊田文化団体協議会 会長</p> <p>【委 員】平吹 洋子 愛知県中小学校体育連盟豊田支所 支所長</p> <p>【委 員】山中 浩之 豊田市小中学校長会 副会長</p> <p>【委 員】南 良明 豊田市 生涯活躍部長</p> <p>【委 員】三浦 法雄 豊田市教育委員会 教育部長</p> <p>【事務局】生涯活躍部文化振興課 安倍課長、太田副課長、大西担当長 生涯活躍部スポーツ振興課 都築課長、太田副課長、阿垣担当長、原田主査、宇佐美主査 教育部学校教育課 小山課長、赤川副課長、馬場指導主事</p> <p>【その他】企画政策部企画課 宮川担当長 地域振興部地域支援課 相田副課長</p>
内 容	<p>豊田市こどものスポーツ・文化活動等に関する協議</p> <p>1 規約及び定足数について</p> <p>2 委員紹介・挨拶</p> <p>3 会長・副会長選出</p> <p>【会 長】形はいろいろ。このことに関わる皆様にとって、そして子どもたちにとって一番よい形を模索したい。そのための方法を皆様と考えたい。</p> <p>【委 員】子どもたちにとって大切な時期。子どもの感性を高めていくことができるようにしていきたい。この場がもてることに感謝。子どもたちの未来のために頑張りたい。</p> <p>4 事務局からの議題の説明</p> <p>(1) 会議の公開及び会議録の公開に関する要綱の制定について</p> <p>【事務局】・マニュアル参考にして、速やかに会議録を作成し、HPに公開。 ・会議は原則公開。個人情報等漏洩がないようにするために会議の全部、一部を非公開とすることもできる。</p> <p>【委 員】異議なし</p>

(2) 部活動の地域移行を契機とした新たな仕組みの検討について

【事務局】・プロ・競技・楽しむといった個人のレベルや意識の差、年齢を考慮したものにしていく必要有。

- ・豊田市の強みを生かす。(充実した施設 企業 地域の人材)
- ・打ち上げ花火的なものではなく、持続可能な環境整備を図りたい。
- ・子どもだけでなく、大人に関心をもってもらうことが重要。
- ・子どものスポーツ・文化活動は、豊かな情操を育むために今後も大切にしていかななくてはならない。
- ・地域とのつながりができる。目指す姿を模索し、そこに関わる人が共有していけるとよい。
- ・R3より学校の部活動に地域の指導者が入っていく取組を始めている。(モデル校)
- ・R5から全中学校で実施していく予定。(R8からの全面実施に向けて)
- ・R8からの全面実施に向け、国の部活動地域移行の推進期間(R5～R7)に、豊田市の形をつくりたい。
- ・R8の形が曖昧な感じである。この協議会をとおして少しずつ目指す形を明確にしていきたい。
- ・地域、学校、関係機関の情報を集約し、市役所の中でも庁内研究チームを作り、一つ一つ課題をクリアしていきたい。
- ・2回目以降の協議会では、具体的な審議をしていきたい。
- ・「こういった方にも参加してもらいたい」という意見をあげてもらい、多彩な角度から意見を求められるような協議会にしていきたい。
- ・地域会議等でのヒアリングを実施し、地域の声を吸い上げたい。
- ・委員の公募も視野に入れている。また、この場の議論では決定が難しいところは他の場も設定することも考えていきたい。
- ・R5には、地域で実施している様々な活動を紹介する冊子等を作成し、豊田の強みをアピールしていきたい。
- ・取組に対するアンケートを実施し、そこで明らかになった問題点をこの場で共有し、解決を図りたい。
- ・R5.2.11に開催したシンポジウムは、200人程度の参加があった。オンラインへの参加は170人程度。アンケート結果から、何となく今の状況を理解していただいていることは分かるが、今後どうするとよいのかということについては、あまり意見がなかった。ここを一步進めるための理解を図り、地域移行の推進をしていくことが課題。

5 議題に関する委員からの意見等

【委員】4月からの移行計画の確認。4月からは全校で地域移行が推進していくという理解でよいか。指導者の取り合いが生じていないか。教員の兼職兼業についても教えてほしい。

【事務局】モデル校はR3が4校。R4は加えて2校。R5からは全校で段階的に地域移行を進めていく計画。準備が整ったところから移行を順次進めている。指導者の確保はどの学校でも課題となっている。兼職兼業は、どのような設定にしていくとよいか検討しているところ。教員も地域の活動に関わっていくことができるような環境づくりをしていきたい。

【会長】良い意味でも悪い意味でも、いろいろな方針が生まれる。指導していく人によって方針が異なるので、立ち上げをするその都度、保護者にきちんと理念を伝えていくことが大切。

【委員】私も書道の面で指導に関わっており、もっと協力できれば良いと思っている。活動の場を学校だけでなく、地域で作っていくことが大切だと思っている。ぜひ協力していきたい。

【会長】どんな方が指導者として登録しているのか把握しているか。

【事務局】各学校から教育委員会に報告をしてもらっているので、おおむね把握している。

【会長】どういった方が参加し、どんな活動がなされているのか把握していく必要がある。

【委員】目指す姿を全体で共有することが大切になる。週末の新しい過ごし方、新しい価値を見出せるようにすることが大切。新しい出会いが未来につながる。中学生だけでなく、幼児期からのつながりも意識していきたい。これまでの中学校の部活動という意識を変えていかななくてはならない。市が考えている3つのレベルを意識すると、高いレベルだけでなく、新しい取組ができてくと豊田市独自の取組になる。モデル校6校はとても大変だったのではないかと。次回、モデル校の成果と課題をもとに審議したい。また、コロナの影響のせいか、アンケートの結果から、かなり子どもたちの遊びの形態が変わっていることがわかった。今の子どもたちの遊びの実態をアンケートで把握する。そのうえで新たな分野を見出し、どんなことができるのか、子どもが何を求めているのかをベースに計画を立てていく必要がある。

【委員】スポーツ・文化活動等とある。今ある形をそのままにして、人のみ変えようとしてはいけな。落語、将棋…。中学校の部活動の概念を取り払うことが必要。地域でこんなことやれるよねという意見があるとよい。それと学校側がリンクしていくとよいのではないかと。

【委員】保見地区では、まず地域の方へ発信することに力を入れた。教員の多忙化解消からスタートすることはやってはいけない。自分の時間をいかにコーディネートするかという意識を子どもにもたせたい。柔軟な考えを家庭がもつことができるようになってきている。技術の向上、友達関係、健康維持など、目的は様々。学校の部活動にはないもので、ダンス等をやっている人が地域にいることも聞いている。交流館から依頼があり、生徒が活用の手伝いに行っていることもある。時期的な取組にはなるが、ニーズに応じた活動もありではないか。吹奏楽の活動も同様である。

【会長】何を目指した活動なのか。選択肢を増やしていくことか。そこを明確にしていかないといけない。そうしないと問題の方が先に出てしまう。目的をきちっと共有すべき。理念を共有すると、そこにつながりも生まれてくる。一つの部の一つの活動に限定するのではなく、マルチな活動をすることもある。保護者や子どもは選択肢を求めていることが多い。楽に選択できることもニーズの一つではないか。

【委員】今後の展開についてお聞きしたい。

【事務局】PRの手法はこれから積極的に考えていきたい。

【委員】先生たちのかかわり方は様々。専門か専門外か。思いや考えはそれぞれ。部活動があることによって、学級での人間関係も変わると聞いている。「これからの休日の過ごし方を考えませんか？」と気軽に考えられるようにしたい。現場の先生も、そこへの関わり方を考えていくことが必要。今は距離がある。一緒に作るイメージで教員にも休日の過ごし方を考えてもらいたい。

【事務局】スポーツだけやっていると、他のことの楽しさは感じられない。いろいろなことをやってみることは価値がある。

【会長】学校や地域によってやりやすいところもあれば、やりにくいところもある。マニュアルは必要だろうか。

【事務局】仕組みはある程度必要と考えている。この考え方もこれからであると思っている。

【会長】指導者に研修の場も必要ではないか。全部の地区を回ってやることは難しいので、オンラインも活用しながら研修は実施していきたい。まずは、どういうものを目指していくのか共有を図るところから考える。